

先輩↓後輩 継ぐ被災地応援

東日本震災の被災地を応援する活動を京都府内の高校生たちが続けている。育てたヒマワリの種を送るプロジェクトに参加したり、現地に桜を植樹したり。「自分たちでもできることがある」。先輩から後輩へと思いは受け継がれている。

(藤松奈美、逸見祐介)

ヒマワリの種送る

立命館 校内や自宅ですて

立命館高(長岡京市)では、京都市伏見区からの移転前、夏になると、ヒマワリの花が正門や中庭、花壇など校内のあちこちで咲き誇っていた。収穫したヒマワリの種を福島県に送る「福島ひまわり里親プロジェクト」に生徒会が2013年度から取り組んでいる。

昨年は、生徒会を中心に約40人が100粒余りを校内や自宅に植えて育てた。

洛陽工業高(南区)では、生徒が12年度に岩手県陸前高田市に桜の若木を植える「さくら、咲かせようプロジェクト」を始めた。13年度

洛陽工業模範会社の売上金で

岩手で桜を植樹

からは、教育活動の一環として生徒が立ち上げた模擬株式会社の売上金を費用に充てている。

模範株式会社では間伐し

た竹で製品を企画、販売。13年度は、売り上げのうち約9万円を活用して現地で

いま 高校で

桜を植樹し、仮設住宅も訪問した。

14年度は1、2年の10人が発光タイオード(LED)を使ったランプやコップなどを製作した。「社長」の林野芳洗君(17)は「少しでも被災地に役立てるよう心を込めて売りたい」と話す。

仮設にはがき大の絵を 銅駝美工
手作り「ままごとハウス」 宮津
募金のコンサート開催 京都共栄

「殺風景な仮設住宅を1枚の絵で明るくして元気をつけたい」。銅駝美術工芸高(中京区)では12年度から、宮城県被災者に、生徒が描いたはがき大の絵を贈っている。3年間で約320枚。同高は「芸術系の高校ができる支援を考えた」と説明する。

手作りの木製の小さな家「ままごとハウス」を福島県郡山市の幼稚園に宮津高(宮津市)建築科の3年生がプレゼントしている。12年度から始め、東京電力福



生徒会が中心になって収穫したヒマワリの種
(長岡京市・立命館高)



売上金が桜の植樹の費用となる竹製品
(京都市南区・洛陽工業高)



福島県郡山市の幼稚園に贈られた手作りのままごとハウス(2014年8月) 宮津高提供